

# 古き良き時代の「昭和」 私<sup>たちは</sup>後世に伝えたい

時計の針を手動で巻き戻すことは出来ても、実際に過ぎ去った「古き良き時代」が再び戻ることはない。しかし、そうした時代の文化や価値観の中には、今もしっかりと評価されているものがある。「だからこそ、途絶えさせたくはない」と次世代に伝えたいと熱心に活動している人たちが北海道にもいる。

エムリンク  
ホールディングス

北見で「うたごえ喫茶」を毎週  
本見社長「みんなが元気になる」

「夢ふうせん」ブランドの福祉施設等を、オホーツク管内を中心に全道展開するエムリンクホールディングス（本見研介社長）の傘下、エムリンク夢ケアは「うたごえ喫茶」を毎週火曜日に開催している。8月15日の終戦記念日の前には恒例で

戦争や平和をテーマにした曲を歌う。営んでいる。名前の由来はラテン語で天秤を意味する「リブラ」、仲間や対等者という意味の「ピア」、そしてピアノリストの小刀禰博子取締役になんだ。

「うたごえ喫茶」を開いているのは北見市中心部から約2キロの美芳町にある「リブラぴあ」の。障がいを持つ人が仕事を通じて自己成長し、社会とのつながりを強める場所として就労支援事業所とコミュニティカフェを運営している。



▲本見研介社長  
「北見でも「うたごえ喫茶」と思い立ったのは2017年、東京で「ブーム」退した。

本見氏が「北見でも「うたごえ喫茶」と思い立ったのは2017年、東京で「ブーム」退した。

の復活」を感じ取ったから。管内合唱団のリーダー的な存在で、NPO法人北見文化連盟理事長を務める本見氏がその魅力をこう語る。「同じ旋律を一緒に歌うことで安心感が生ま



▲アコーディオンを演奏するスタッフの常田民さん ▲うたごえリーダーの宮村寛さん



きる力になりますね」  
通常は午前11時〜午後3時まで、お昼休みを挟んで「ほぼ歌いっぱなし」の状態。昭和歌謡やフォークソング、ロシア民謡など1回の開催で40曲程度を歌う。事前申し込み不要で入場料は1000円（1ドリンク付き）。



▲ピアノ演奏をする取締役の小刀禰博子さん

れるのが合唱と大きく違うところ。声を出すのは身体にも良い。生き。客層は中高年齢者が中心で、女性がや

終戦記念日の前には戦争や平和にちなんだ曲を歌う。長崎の大浦天主堂をテーマにした『長崎の鐘』や『戦争を知らない子どもたち』などだ。「気持ちの一つにして平和を祈る。うたごえ喫茶は、昭和が生んだ一つの文化です」と語る本見氏は、「火曜日を楽しみにしている方も多い。地域コミュニティの場としてできる限り、続けていきたいですね」(T)

北海道中央バスグループ

今堀匡佐子さんが一冊にまとめた  
バスガイド生 40年の泣き笑い

北海道中央バスグループの6月30日、自費出版の『発車オーライ！泣いて笑って40年北の大地でバスガイド』

を上梓した。北海道新聞夕刊で2012年から11年間連載されたコラムから厳選収録した



続きは『**月刊クオリティ**』本誌を  
ご覧ください。

▼ ご購読のお申し込みは ▼

○インターネットでのお申し込みはこちらから  
<https://qualitynet.co.jp/koudoku/>

○お電話でのお申し込みはこちらから

**TEL 011-644-0101**

(9:00 ~ 17:30 土日・祝日をのぞく)